

一般質問

乃村 吉春 議員

- 国道240号線の路肩整備について
- 多目的活動センターの活用について

議員

国道240号線の 歩道整備をすべきでないか

町長

実態調査をし、要望をしていきたい



議員

現在、共和の一部まで整備されているが、物流の幹線道路で、大型車やトレーラーなどの交通量も多く、子どもたちの自転車通学や歩行する人たちの安全のため、早急な整備が必要だと思うが考え方を伺いたい。

町長

国道240号線は釧路管内とオホーツク管内を結ぶ主要道路で、5年ごとの道路交通センサスでは、平成22年度の恩根入口から道々北見津別線の交差点までの昼間の12時間の交通量は約3千台となっています。整備に関しては、開発の

交通安全にかかる整備方針があり、また予算も限られてお

り、交通事故件数などのデータと地域の声を合わせて「事故危険区間」を設定リスト化し、優先的に整備を進めています。津別町では、柏町の急カーブがリストアップされています。共和区間はこれに入っていないので、実態調査をして要望をしていきたい。



議員

多目的活動センターに 観光協会を置いては

町長

関係機関と十分検討していきたい

議員

多目的活動センターは、津別町のさまざまな情報発信基

地としての役割を担う施設であるが、観光情報も町をPRするために重要であり、観光協会を置き、より多くの情報発信に役立てたら良いのではないかと。

町長

第5次総合計画の「まちづくりセンター構想プロジェクト」の7つの項目で、中心市街地活性化のための機能を担っていくということ、観光協会の事務局を置くことは入っていません。立地条

議員

件を活かして施設の有効活用を考えると、事務局の設置場所、観光振興について、協会、まちづくりセンター運営協議会とも検討したい。

町長

カフェ運営は利用者が増えています。施設の有効利用も含め運営協議会とも十分相談していきたい。交流の場としてのお茶を飲むところ、津別ならではの物を作り話題性を高める取り組みもできれば良いと思います。



山内 彬 議員

- 愛林のまち・木のまちについて
- 健康福祉センターについて

議員

木材工芸館などを 充実維持管理すべきでないか

町長

運営委員会とよもご検討しようかと思います



議員

昭和57年に「愛林のまち宣言」がされてから30年を経過しようとしている。

シンボルとして木材工芸館を建設し「愛林のまち・木のまち」として、津別町はこれまでさまざまな施策を実現、町の活性化を図りながら町づくりを進めてきたところである。10月に木材工芸協同組合が解散となり、木材工芸館及び木工体験工房が今後どうなるのか心配されるものであり、次の点について伺いたい。小学校及び中学校において全国でも初めてとなる外部講師を招いて「木育」授業を進

めている現在、木材工芸館及び体験工房の施設の充実を図り維持管理すべきでないか。

町長

「木育」の取り組みは平成21年度から、小学校3年生・5年生・中学校1年生を対象に年間3回実施しており、小学3年生は「木とのふれあい」、5年生は「木から製材へのプロセス」、中学生は「製材から製品になるまで」を学ぶということになっていきます。

木材工芸館・体験工房での授業を行っており、道立の森林学習展示館や加賀谷木材さんでの授業も実施しています。今後においても工芸館の設置目的に沿い、工芸館の活性化と特色ある生産活動と林産業の振興発展を図るため、特産品加工業などに関する研修の実施、さらに木工教室とウッドクラフト展を引き続き開

催するなど、今後とも新たなニーズにも対応できる環境整備について、運営委員会とともに検討を進めていきたい。

議員

木材工芸協同組合解散後、加工施設は前協同組合の職員であった個人が引き続き営業を続けているようであるが、今後も工芸館と一体的に考えていくべきでないか。また、木のまちの津別という町の柱として、丸玉産業さんを含め町の産業コーナーや森林セラピー基地PRコーナーなど、工芸館展示スペースを整備すべきと思うがどうか。

町長

現在引き継いでいる個人経営の木材工芸舎が製品の確保及び煙山さんとの関係から当面動きを見守り、協力できるところは進めていきたい。

工芸館も30年がたちリリニューアルも必要な時期に入ってきているので、運営委員会で議論されることとなります。

議員

木材工芸舎への今後の支援策についての考えは。

町長

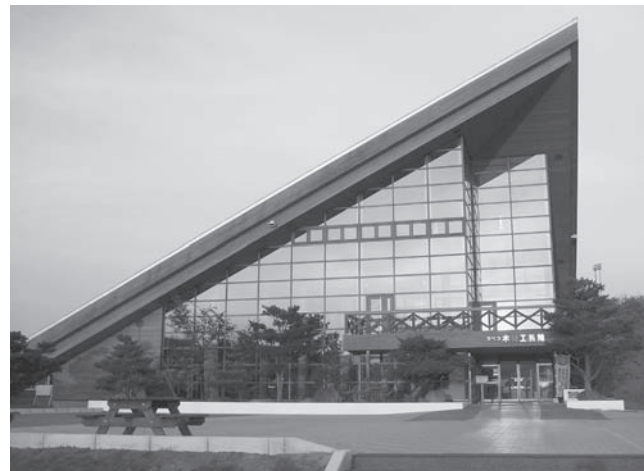
特に今のところ考えていませんが、要請があれば協議の中で進めていきたい。

議員

各地域にあった愛林の塔の基礎部分がそのまま放置されているが、責任を持って撤去すべきでないか。

町長

今すぐ取り壊すということにはなりません、撤去せざるを得ないと思っておりますので、検討していきたい。



議員

道立の森林学習展示館は どうなるのか

町長

平成26年度
津別町へ移管の予定

議員

道立21世紀の森の「森林学習展示館」が、平成25年以降津別町に移管（北海道の所有から津別町の所有となること）になると聞いているが、移管後の維持管理をどう進めていくのか。

町長

道立21世紀の森の移管については、現在北海道と条件について協議中であり、合意できれば平成25年4月ごろ覚書を取り交わすこととなっております。移管の時期として平成26年4月を予定しています。

「青少年に森林及び林業の役割を理解していただくことと、将来における人と森林との好ましい結びつきについて啓発する」施設であることから、この目的に沿った管理運営に努めていきたい。

議員

健康福祉センターの整備を 進めるべきでないか

町長

当面公共施設を利用していききたい

議員

町民の健康福祉の取り組みは重要な問題であり、第5次総合計画において健康福祉センターの整備を進めるとしている。ほとんどの市町村はこれらの施設を整備し、住民の健康相談、集団健診、健康増進に取り組んでいる中、津別町としてはこれらの重要施策を先送りしているのではないか。

町長

総合計画では「健康を大切に育むまちづくりプラン」があり、実行計画において「健康福祉センターの整備」を計画しています。健康相談・健康づくりの支援、介護サービスのための包括支援センターの機能などを併せ持つものとして整備し、将来的には津別病院と連携して、予防体制の充実も検討することにして



ています。

具体的には、前期実施計画の「認定こども園・子育て支援センターの整備」が平成26年度となっているので、平成27年度以降の計画としています。その間、現在の公共施設を利用して機能できるように整備し、健康づくりに関する事業は積極的に今後も取り組んでいきたい。

議員

役場機能の中で健康相談を含めなかなか難しい。また、町民会館などの施設を使って集団検診を実施しているが、非常に受けづらい場所と聞いている。

このこともあって、受診率は50%以下になっていると思うが、施設などに問題があるのではないか。

町長

前期計画の中でできる考えとしては、議事堂下にある教育委員会の事務室を転用して、健診などの場として利用できないか検討しています。

また、健康相談室が役場庁舎内に独立して出来るが、のりしろでしっかり対応していきたい。

一般質問

篠原 眞稚子 議員

- 節電と停電の対策について
- 買い物弱者対策について

議員

節電と停電の対策は万全か

町長

状況に応じた避難所の設置を考えている



りますが、6月は11・13%、7月は15・66%、8月は14・43%、9月は10・13%の減となり十分なものであったと考えています。

議員

去る11月末、室蘭市や登別市を中心に起きた大停電は、我が町でも起こり得ること。停電が長期にわたると命にもかかわる問題であり、豪雪や送電線の事故などで避難する場合は想定した暖房や、食料などの備蓄など、準備はできているのか伺いたい。

町長

停電の対策ですが、庁舎独自で防災無線用発電機1台5時間分、地デジ非常用電源50時間分、電話交換機非常用電源3時間分、電算システム非常用電源30分分の設備を備えています。

北海道電力からの支援につ

いては、役場庁舎が停電で機能しなくなったときは、電源車による電力供給を受けることとしています。

議員

仮に避難しなければならぬ場合、備蓄の状況はどうなっているか。

町長

避難所の設営につきまして、状況、規模に応じて避難所または拠点避難所の設置を行うこととし、食料について

は、給食センターの備蓄の活用、あるいは購入により炊き出しを行いたいと思っております。

備蓄は年次の整備計画を立てており、来年度から5年間で補充したいと思っております。

暖房については、業者からの借り上げになると思いますが、冬の停電では寒さが一番大変なので、ポータブル式のストーブなども購入しようと考えています。

特に規模が大きく、町単独での対応が困難な場合については、自衛隊の応援を要請することも考えています。

節電



家庭での電気製品の節電ポイント (北海道電力ホームページより)

照明

- ・不要な照明をできるだけ消す。
- ・照明のかさやカバーをこまめに掃除する。

テレビ

- ・画面の輝度を下げ、必要なとき以外は消す。

掃除機

- ・部屋の整理整頓をしてから掃除機をかける。
- ・集じんパックを適宜取り替えるのも効果的。

待機電力

- ・リモコンではなく、本体の主電源を切る。
- ・長時間使わない機器はプラグをコンセントから抜く。

冷蔵庫

- ・扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込み過ぎないようにする。

議員

買い物弱者対策は進んでいるか

町長 商工会、社会福祉協議会などと連携して進めたい

議員

昨年9月議会で同じ質問をした際、町長は行政としてできること、民間活用や新たな公共の担い手の活用も期待しながら対策を進めたい、との答弁でした。現状はどうなっているのか。

町長

経済産業省の買い物弱者応援マニュアルに事例紹介があ



り、結論は「売上高を増やす」「売上原価を減らす」「販売管理経費及び一般管理経費を減らす」といった視点で書かれており、特に事業主体の取り組みが重視されているところです。町としましても商工会の動きを期待しているわけですが、去る12月3日、意見交換会を実施したところ、買い物弱者対策は、商工会商業部会の検討課題となっており、

これまでの先進地視察の状況からも問題点が多くて、具体的な議論は進んでいないというお話でした。仮に事業化する場合でも、組織の立ち上げや、運営に資金を要するため、なかなか難しいと、それから失敗事例も多くちゅうちょしている。金銭面を考えると行政に頼む以外ないなど、こうした意見も踏まえて、今後も役割分担について商工会に限らず、NPOや自治会なども検討したい。

議員

高齢者保健福祉計画の地域生活支援体制整備の中でも、直面する課題として、買い物支援や外出支援、声掛け、見守り支援などが挙げられている。早急に対策を講じる必要があると考えるが、考え方を伺いたい。

町長

今年度からスタートした、津別町高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の中においても、生活支援ニーズに対応した介護保険の対象とならないサービスを充実して、高齢



者を地域全体で支えるネットワークづくりを推進したいと考えています。

議員

買い物弱者を、福祉の面で考えていくのが早道ではないか。

町長

商店個々においては宅配をして、買い物弱者といいますが、そういった方々の対策に一役を買っているというのが現実です。商工会とはこれからも話し合いを持ちたいと考えています。

また、健康で元気な高齢者の方々も支援を必要とする人を支えるサポーターになってもらい、その人たちを登録して派遣するシステムを社会福祉協議会と連携して、作り上げる検討を進めているところです。

議員

町長の諮問機関に 議員の参加を見直さないか

町長 議会と町で話し合い
決めていくことはどうか



議員

現在、議員が参加している審議会、協議会など、町長の諮問機関に議員が参加することになった経過を聞きたい。

町長

附属機関の委員委嘱に当たっては、専門知識を有する事務、客観性、中立性を求められてきたことから議員としていない部分と、公益を代表する者、識見を有するものと表現し議員の方に入っていたいただいているという経過です。

議員

行政の監視という議会の役

を出しているところから減らし、将来的に議員以外の構成を目指していただきたい。

町長

附属機関などの設置目的や活動内容を考慮し、適正な委員数の見直しを計画してまいります。委員会の議員の定数については、議会側、理事者側で他町村の例も参考にしながら人数、入るべきかどうかも含め検討していきたいと考えています。

町長

法律で決められている以外、条例で決められている部分については、不都合があるのであれば、双方で話し合いをして決めていくかどうかと考

議員

オホーツク管内の町村議員に電話をかけ聞いたところ、10町村につながり、その中で議員が審議会に参加しているのは大空町だけでした。

町長

これは議員の皆さんとの合意も必要なので、どういう形で進めていくべきかも検討させていただきます。



議員

審議会などに女性委員を増やそうとしているが、どの程度にしようとしているのか。

町長

男女が対等なパートナーとして、町の政策形成や意志決定に参画できるように、女性委員の登用率を高めるため、平成24年度までに30%達成を目標としてきましたが、昨年は28%となり、あと一步のところ。10審議会に女性委員がいないので、一人でも二人でも入っていただければ30%はすぐに達成されます。

谷川 忠雄 議員

○歩いて暮らせる町づくりの街区再整備の方策は

議員

「歩いて暮らせる町づくり」 街路整備の方策は

町長

柏町国道のカーブ解消に併せ
早期改修を開発に要望中



議員

町長は、町政方針に「歩いて暮らせる町づくり」を明記されているが、中心街のカーブブロックの歩道は、整備後10年余りを経過し、レンガ破損やひび割れなどが目立ち、修復補修された箇所も色違いが見られるなど違和感を覚える。町民には不評で、その中でも特に、歩行弱者はつまずき、転倒によるケガの危険に直面しており、歩くのが不安との苦情が再三聞かれる。

開発に関係することであるが、街路歩道の抜本改修整備について、有利な補助制度などの検討を行い、早期に再編整備すべきと考えるが、対応を聞きたい。

町長

歩道の傷みは十分承知しており、今年4月に柏町の国道のカーブ解消に併せて、歩道の改修の早期実施について開発に要望書を提出しているところですが、国の予算状況によって進む、進まないか出てきます。

議員

歩道整備に当たっては普通

町長

舗装、カラー舗装、カラーブロック整備などの工法があるが、工事単価を聞きたい。

町長

工事単価は掘削の深さや舗装厚により異なりますが、仮に掘削深300ミリ、舗装厚30ミリ、インターロッキングの場合、60ミリと仮定した場合、m当たり、普通舗装で約2千600円、カラー舗装で約4千500円、インターロッキングで約7千円になります。

カラー舗装は、町の計画にあることが望ましいと考えているので、検討を始めていく考えです。

議員

歩道整備によるにぎわいと、売上げの貢献度をどう判断しているか。

町長

商工会では、国道240号線をシンボルストリートと位置づけ、まちの顔づくりで店舗の改修などが検討されましたが、実現に至らなかった状況で、売り上げの効用は調査や町の分析資料もなく、判断は難しいと考えています。

議員

街路樹が伸び放題で、景観上対応が必要である。

また、今後の歩道の再整備は修復が簡単にでき、日常管理のしやすいものを考慮すべきでないか。

町長

フラワーマスターの関係で専門の方にタウンウォッチングをいただき、アドバイスを受けたので、街路樹の方も考えていきたい。

再整備に当たっては、工事単価のこともありますので、開発としてはカラー舗装の方向になっていくと思います。

